

エス・エス・ジェイ

倉敷中央病院が *SuperStream* を用いた強力な 管理会計の導入で、収益性向上に向けて大きな一歩

経営の質、医療の質、社会貢献の質を 三位一体で高めて周辺地域への貢献を目指す

倉敷市の財団法人倉敷中央病院（以下、倉敷中央病院）では、2005年10月から、*SuperStream*を用いた財務会計システムを運用している。旧来のメインフレーム・ベースの自社開発システムから会計パッケージシステムへと移行したことで、管理会計を実現。病院経営に必要なデータをタイムリーに入手・分析することができるようになった。

倉敷中央病院は、今後、これらの会計データを活用して経営改革を推し進めていくことで、マネジメントレベルを高め、ひいては収益性の向上をねらっている。経営の質を高めることで、これと三位一体である医療の質と社会貢献の質も高めていき、倉敷市を含む周辺地域への貢献を目指している。

管理会計を導入して経営の質を高めたい

倉敷市の倉敷中央病院は、大正12年、倉敷紡績株式会社の大原孫三郎社長が創設した企業立の急性期病院である。大原孫三郎氏は「社会から得た富は社会に還元する」という社会貢献の考えを明確に持った経営者であり、倉敷中央病院は「世界水準の医療を地域住民に提供する」といった、中・長期ビジョン「Excellent Hospital（すばらしい病院）」を掲げ、「医療の質」「経営の質」「社会的成果の質」の向上を目指して活動してきた。

「けれども、病院を取り巻く経営環境は年を追ってきわめて厳しくなっています。病院のミッションを達成するためには、改革を行い、収益性を上げなければなりません」と、倉敷中央病院 常務理事 事務長の相田俊夫氏

は語る。

経営の質を高めるためには、まず、現状を知り、改革や意思決定の前提となる数値を把握しなければならない。しかし従来の会計システムは、2つの点で問題を抱えていた。1つは、メインフレーム・ベースで稼働する自社開発のシステムであり、経営上で必要なデータを取る度、プログラミングが必要だったこと。もう1つは、2000年問題を暫定的な対応で乗り切ってから数年が経過していたため、メインフレームでの継続稼働には限界が生じていたこと。

そこで、病院の中・長期の経営戦略に沿ってタイムリーな管理会計を実行できる会計システムの構築が開始された。

損害保険にも対応するきめ細かい債権管理を実現

倉敷中央病院では、強力な管理会計ができること、27診療科・約1100床・職員約2500人という大規模な病院経営に耐えるシステムであることなどを要件として、各種パッケージを検討した。

*SuperStream*を選定したのは、特に次のポイントを評価したためである。

第1に、必要としていた財務会計、債権・債務管理、分散入力といった機能を網羅していること。特に、患者個人が加入している損害保険の複雑な請求および入金・残管理の処理をするAR+（債権管理システム）を評価した。「例えば、損害保険からの入金に対して、どのお客様のどの治療に対する入金であるか、きめ細かく管理して残高を消し込みしていく債権管理システムは*SuperStream*だけでした」と経理グループ 係長の森脇利正氏は語る。

第2に、資材管理システム、医事システム、人事システムなどとスムーズに連携ができるオープンなシステムであること。

第3に、SuperStreamは導入実績が豊富で、多くの大規模システムが実際に安定運用されていること。「当病院は財団法人の会計をしなければなりません、会計というのは基本的に企業会計と同じです。公益法人向けパッケージにこだわらず、高い信頼性を持って稼動することを優先して選びました」と、経理グループ 担当部長の豊島賢三氏は語る。

科別・部門別のコストと収入把握が可能に

SuperStreamを用いた新しい会計システムは、2005年1月に導入を開始し、同年10月に全システムが稼動した。ちょうど病院会計準則が改定されたが、スムーズに対応することに成功した。システム刷新の最大の効果は、マネジメントレベルが向上したことである。診療科単位で、収入とコストの両面がわかるようになり、バランスシートの作成が可能となり、部門別でもコスト把握が実現し、収入管理も実現できる見通しが立っている。しかも、経営管理上で欲しいデータは即座に抽出でき、旧システムでは必要だったプログラミングの手間を一切かけることなく、確認できる。

また、倉敷中央病院の経理部門は、倉敷リバーサイド病院や総合保健管理センターなど、関連施設の会計も支援しているが、この作業の負荷軽減にも、SuperStreamは大きく貢献している。財団法人、社会福祉法人、株式会社など、異なる会計処理を同一システムで処理できるのもSuperStreamの特長である。

各自の行動の羅針盤となる数値を示して改革を推進

倉敷中央病院は、2003年にスタートした中期計画の目標を順調に達成し、2008年4月からは、次の中期計画がスタートする。「次の5年間は、マネジメントレベルをもうひとつ上げたい」と相田氏は意欲的に語る。病院で経営改革を推し進めるには、ドクターのモチベーシ

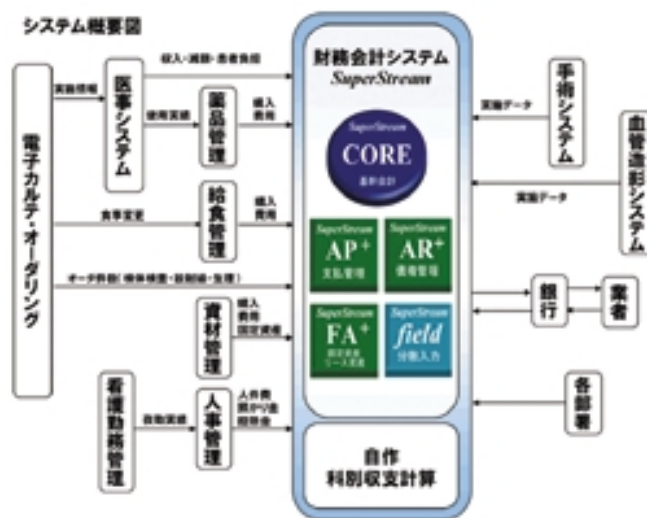


図1 倉敷中央病院のシステム概要図

ョンを高めながら、目標に取り組む環境を整える必要がある。SuperStreamから出てきたデータを示し、ドクターの行動と数字がどのように連動しているかをタイムリーに見てもらえるようになったことは、大きな意味を持っている。

「経営の質というのは、測定しにくいものであり、SuperStreamはその測りにくいものを測るための必需品として導入しました。SuperStreamから得られるデータを各現場が『羅針盤』にして自ら動いていくことで、最終的には収益性が上がり、ミッションを達成する条件も整っていくはずです。ここに住んで良かったと思われるように、経営の質を上げ、医療サービスを良くすることで、地域に貢献していくのです」と相田氏は熱を込めて語る。

強力な管理会計が求められるようになった医療会計の領域においても、SuperStreamは着実に支えている。

エス・エス・ジェイ(株)
TEL : 03-5702-9110 E-mail : ss-info@ssjkk.co.jp